



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



生活の場で福音の証人になろう

新たな取り組みが始まった今年のザビエル祭

毎年恒例の「ザビエル上陸記念祭」が今年は八月十五日(日)に行われた。今年も例年のように「ザビエルウオーク」に始まり、鹿兒島ユネスコ協会との「平和の鐘を鳴らそう」、そして「上陸記念ミサ」と「パーティー」だった。ただ今年は、八月一日(日)に教区巡礼委員会主催の「ザビエル歴史巡礼」が記念祭の一環として実施されたほか、ザビエル教会に「ザビエル通り」の表示板と新たに鐘が設置されたことに加え、キリスト教という枠を越えた宗教団体からの出席もあるなど、例年よりも活発な動きの見られた記念祭となった。

ここ数年、一人でも多くの人に出席して欲しいとの願いからお盆を避け、聖フランシスコ・ザビエルの鹿兒島上陸の記念日に近い日曜日(八月十五日)に「ザビエル上陸記念祭」だったが、今年は記念日と日曜日が重なったため「日本を代

表して鹿兒島教区が行う」というこの意義ある上陸記念祭は八月十五日に行われた。

ザビエルウオーク

聖ザビエルの上陸地に近い祇園之洲をスタートするザビエルウオークには約八十人が参加した。その中にはカトリック



横断幕を掲げザビエル教会を目指す一行

信者のほかに、今年の春から鹿兒島教区と共に「軍事費を縮小しその費用を極貧に喘ぐ人の生活上のために使おう」という「アームズダウン運動」に取り組んできた立正佼成会の青年たちの姿があった。参加者たちは、「多宗教交流―平和を信じる心はボーダレス―」をテーマに、猛暑の中、高らかに聖歌を歌いながら、ザビエルが滞在したであろう上

町地区や忍室和尚と交流のあった福昌寺跡を經由してザビエル教会を目指して行進した。

新風

鹿兒島教区ではこの四年半の内にベトナムから四人の司祭、三人の修道女、七人の志願者を受け入れてきました。海外からの日本への入国には法務省の管轄下にある入国管理局の厳しい審査を受けなければなりません。入国申請書は入国の目的に従って申請します。宗教法人カトリック鹿兒島司教区が受け入れ母体です。当然宗教ビザの申請になります。

司祭と修道者はその身分が確定している問題はないのですが、志願者の場合は苦勞します。管理局が言うには志願者の場合、年齢が若いし、まだ、宣教師としての身分は認められないというのです。現在、入管が問題にしているのが、二十万人以上と言われる不法滞在者の存在です。学生ビザや宗教ビザを取得して入国し、実際は就労し

旧教会の鐘復活

一行のザビエル教会到着後にあった鹿兒島ユネスコ協会との「平和の鐘を鳴らそう」は今年で七回目。郡山健次郎司教と田中弘允鹿兒島ユネスコ協会会長が新たに設置された鐘のロープをたぐり寄せ、これまでとは違う鐘の音を鹿兒島の空に響かせた。この日二人の手によって打ち鳴らされた少し小ぶりの鐘、実は旧ザビエル教会の鐘楼に吊るされていた由緒あるもので、その名も「フランシスカ・マリア」。教会の倉庫に眠っていたものが手入れされて復活した。今後は、教会で



④旧ザビエル教会の鐘と教会前の通り名を示す表示板

⑤8月1日にあった「ザビエル歴史巡礼」の参加者たち

の冠婚葬祭時に打ち鳴らされることになるという。**記念ミサ** 三百人が参列した上陸記念ミサは、午後五時に始められた。ミサの様子はインターネットでも配信され、各地で多くの人が聖ザビエルの偉業を聖堂内の信者と共にたたえ、その熱い想いに触れることができたという。ミサで説教した郡山司教は「ザビエル到来がきっかけとなって闇から光の

とへと呼びだされた私たちに、生活の中で平和を築くという使命がある。ミサに参列するだけではまだ足りない。生活の場で福音とされる生き方を追い求めよう」と信者たちにメッセージを送った。ミサ後は、例年通り希望者たちが教会ホールと中庭で夕食のひとときを持ち、フイリピン共同体の踊りやタヒチアンダンスの披露を楽しみながら交流した。

信者はみな宣教師

まず、カトリック信者はみな宣教師であること。新カトリック教会法典第二二一条には次のように書かれています。「すべてのキリスト信者は、神の救いのメッセージが全時代全世界のすべての人によりいっそう伝達されるよう努める義務及び権利を有している」。次に、志願者の条件。第六四二条

には「上長は、志願者が必要な年齢に達しているほかに健康、適切な性質、会の固有の生活を営むに十分な成熟度を示す者にのみ入会を許可するよう、よく注意しなければならぬ」と記されていること。さらに(修道誓願宣立の前)第六五三条(2)に「修練期が終了したとき、修練者は適性があると判断される場合は、有期の誓願の宣立を許可され、そうでない場合には退会させられなければならない」と記されていることなど。以上の論旨の結論として「宣教師の身分に至るまでの課程を認めてほしい」ということを訴えました。この機会に私たちも教会法の方法の精神は「宣教師は与えられるものではなく、育てるものであること」そして「その対象はキリスト信者全員である」ということを心に銘記したいものです。(H・N)

YET

給料日に女房から一か月分の昼食代と小遣い、それに教会維持費用を加えた二万三千円を頂く。でもそれから十日もするとその中から福沢諭吉さんの姿は消え、野口英世さんだけ。また給料日前ともなると財布は「無用の長物」と化し、使わないよう折り畳んだ野口の英世さん一人が最後の砦となっている。この野口さんだけは、可愛そうだが我儘天使の息子(二歳十一月)に何を頼まれても使うわけにはいかない▼学生時代、実によく働いた。新聞配達に皿洗い、そしてらしくなかったが塾の講師に、車の陸送：学業はそっちのけでアルバイトに精を出した。下宿代もそうやって工面したし、一人でも生きていけると自惚れていた▼そんな自分を叩きのめしてくれたのは、その頃千円札を飾っていた伊藤博文さんだった▼予定していたバイト代が入らなくなり、買い置き即席ラーメンも底をついて数日が経ったとき、空腹に負け、とうとう掻き集めた小銭で実家に「二三日食べてない」と電話をかけた。すると半日後、実家から電信為替が届いた。電話作戦に負けた両親が工面してくれたものだ。でも喜び勇んで開けた封筒からは伊藤博文が印された紙幣一枚しか出てこなかった。送金費用とたいして変わりもしない額にがっかりもしたが同時に実家の窮状を理解しないうちに大学に進んだ自分を恥ずかしく思った▼それから三十年余り、今でも一枚きりの千円札を見るとあの時の後悔の念と「これかいがわき起こってくる」。

今回は『信仰宣言』について神学的にどのよう捉えたいのかを学びを中心としながら深めて行きたいと思えます。参考文献としては「新カトリック大辞典」(一九九八年一月初版、研究社)、「カトリック教会のカテキズム」(カトリック中央協議会発行、二〇〇二年発行)を使用致します。

(1)「新カトリック大辞典」には『使徒信条』(第一巻・P1・二六四)について、小高毅神父様(フランシスコ会・霊性学)が以下のように纏められています。

『使徒信条』は西方教会に広く用いられている信条です。しかし東方教会ではあまり知られていません。この信条はローマ教会が保持してきた信条であると言われ、(一九九〇年ミラノ教会会議、教皇シリキウス宛の書簡において『使徒信条』について言及があります。)

「ニケヤ・コンスタンチノール信条」とともに基本的信条と言われます。

「信条は(ラテン語 symbolum) 本来、割り符という意味があり、二つに割ったものの半分を意味しており、それを持つているものを識別するために使われました。したがって信仰のシンボルは信者同士が同じ信仰を持つているかを判断するための割り符(基準)なのです。」(カトリック教会のカテキズム一八八項) 信条自体が信仰の主な教えを選び集めたものであり、洗礼志願者のための信ずべき信仰内容を分かりやすく、簡潔に纏めたカテキジムの基本的な基準なのです。また、任命者が新し司教や司祭を任命する場、選ばれた人が自らの信じている信仰内容を任命者

の前で宣言するために使われました。基本的信条のほかに『アタナシオス信条』(クイクムクエ) いくつかの教会会議(トレド、ラテラン、リヨン、トリエント)の信条、幾人かの教皇の信条(『ダマソス教皇の信条』、『パウロ六世教皇の『神の民のクレド』(一九六八年)があり、多様です。これらの信条も常に変わらない信仰を把握し理解するための助けになり、無用のものとみなすことはできません。カトリック教会は第二バチカン公会議まで、ミサの中では『ニケヤ・コンスタンチノール信条』を伝統的に用いてきましたが、現在、日本では『使徒信条』のどちらでも使用できます。一般に、ロザリオの祈

められていきます。しかしながら、『使徒信条』は十七世紀から二十世紀初頭にかけてプロテスタント教会では、使徒信条の礼拝に使用する強制的な動きに対して論争があり、特にイエスの誕生から死に至る部分は内容的に不足しているとの指摘がなされ(J・モルトマン)、カトリックの側からも同様の指摘がなされています(K・ラーナー)。しかし、ラーナーは「これに執つて代わる後継信条を持たず、そのまま存続するであろう」と述べています。

「唯一の神」があります。

① 聖書にある「天と地」という表現は存在するすべてのもの、全被造物を意味します。「地」は人間の世界。「天」は空だけでなく、神の固有な場、終末的な栄光としての天の意味や神を取り巻く霊的被造物をも意味します。(三二六項)

② 「初めに、神は天地を創造された」(創世記一章一節)。この「創造」は神の救いのすべての計画の土台、キリストを頂点とする救いの歴史の始まりです。(二八〇項)「創造主」の考え方はきわめて重要で、人間として、またキリスト者として生活の根底に関わっています。「人はどこから来て、どこに向かっているのか?」という問題(起

北薩地区宣教奉仕者 (信徒使徒職) 養成講座 信仰宣言を神学的に捉える

出水教会主任司祭 大松 正弘

りは『使徒信条』をもつて始まるなど、信徒の日常の祈りとしても用いられてきました。『使徒信条』の起源は七世紀ごろローマにおいて「ローマ信条」から作成されたという研究もあります。(U・Hahn1875-1919) しかし現在の『使徒信条』に最も近いものが現れるのは七世紀の南フランスであり、それがフランス全土、ドイツでその権威が確立され、さらにローマのものとして確立されたと考えられます。

内容としては『父』『子』『聖霊』などについての十二条項(アンブロジーオによる。他にも十四条項、父と子と聖霊の三分節等多くの分け方がある)がま

照。『使徒信条』に基づき、これをより詳細な「ニカイヤ・コンスタンチノール信条」に照らし合わせながら説明が補足され、詳しく説明されています。

今回は紙面の都合により、『父』の部分のみ深めたいと思います。

『使徒信条』：天地の創造主、全能の父である神を信じます。「ニケヤ・コンスタンチノール信条」：わたしは信じます、唯一の神、全能の父、天と地、見えるもの、見えないもの、すべての造り主を。両信条に共通している神に対する属性は①「天地」見えるもの、②「創始主」、③「全能」、であり、後者にはそれに加えて④

源と究極目的の間)に「神が創造された」と宣言することはわたしたちの生活と行為の意味、ならびに方向性にとって決定的なものです。(二八二項)

③ 全能の神と宣言することはわたしたちの生活にとって大きな意義があります。それは父なる神の全能がすべてのものに及び、いつくしみにあふれ、隠されたものである事を宣言します。(二六九項) 私たちの信仰と希望を強固にするために最適なものは、神におできにならないものは何もないと、心中に深く刻まれた信念にほかなりません。(二七四項)

④ 旧約聖書の神の啓示に根ざしている神は唯一であ

るとい宣言は神の存在の信仰と切り離すことができず、実に根本的な宣言なのです。神は比類のない方で、唯一の神しか存在しません。キリスト教信仰は本性上、実態上、本質上、唯一の神が存在することを公言します。(二〇〇項)

今回は信仰宣言の内容についてアウトライン的なものと『父』についての部分のみ触れました。短い信仰宣言ですが、信仰宣言の内容を理解することは聖書全体から「三位一体の神」について神学的に理解することにはかなり重要で、その意味で『信仰宣言』は信ずべき内容が短くまとめられ、た、誰でも覚え易い、信仰の先輩たちからの遺産です。この遺産をより深く、大切に次の世代に伝えていくことは現代に生きるキリスト者の使命です。

《感謝の祈り》参加者の誰かが自分のことばで感謝の祈りをささげる。

次回は九月十九日(日)十四時から、入来教会で行われます。

【和善の窓から】その⑪ 自分に話す：身体に語る

Fr. 松田清四朗

自分の身体に、やさしくありがとう!と言おう。良くやってくれているね!とお礼を言おう。もう少し頼むよ!とお願ひしよう。無理をさせていることには心から謝ろう…。

最初の入院治療の頃、消灯の後寝付けないある晩、こんなことがありました。朝から晩まで「肺」だけが「世話」を受けていることに、他の臓器たちが「シット」したのです。自分たちのことにも少しは、目をかけてよと、拗ねているのです。とくに「胃」でした。度重なる放射線や強力で大量の抗がん剤注入で順調に回復していく「肺」の為に、「胃」は副作用も起こさず懸命に身体づくりに貢献していたのです。縁の下の力持ちというより、本当に重要な役割を果たしていたのです。医師も看護師も周囲の仲間も驚く程だったのです。

「オレも頑張っているんだからネ」という声



が胸を刺すように聞こえてきました。「ああ、ゴメン、ゴメン、本当にそうだ。ありがとう、ありがとう」。それから毎晩、そして現在に至るまで、各臓器に順番にお礼を言い続けています。そして、今の今まで、お礼を言うなんてことを思いもしなかった非礼を心から深く詫びています。

～和善の案内～

◆ 9月特別講座第1回目：キリストを着る ◆

受洗5年以内の方々の為の研修=9月4・11・18(土)10:00～第1回(3回連続): 洗礼の恵みを感謝する!

※月18時30分 ※水10時(第2・4於始良)

※WAZEN ころろ相談室(第1・第3:要予約)

※金10時 《各クラス新しい参加者を募ります》

★和善耕心塾ブログ

<http://mr826.net/wazen/blog> (Fr. マツダ)

+KABAYAN SEKSIYON+

"Santatuhang Panalangin/Pagsamba"

"Ang tungkulin ng Simbahan ay ipakita ang presensiya ng Diyos Ama at ang Kanyang Nagkatawang-taong Anak na parang talagang nakikita samantalang walang tigil sa pagpapanibago at paglilinis ng kanyang sarili sa paggabay ng Espiritu Santo". Ang pagsamba ng mga Katoliko sa Ama, Anak at Espiritu sa Kristiyanong sambayanan ang maaaring pinakamabisang paglilinis at pagpapagaling sa ating panalangin may "ilusyon" at nakasentro sa sarili at pansariling kapakanan. Sapagkat tinatawag tayo ng Santatuhang panalangin lumayo mula sa huwad na "pananampalataya" na naghahanap ng pansariling kapanatagan tungo sa bukas-loob na pagbibigay ng sarili sa pakikibahagi sa mapang ligtas na misyon ni Kristo at ng Simbahan sa mapagmahal na paglilingkod. "Kung kayo'y mag-ibigan, makikilala ng lahat na kayo'y mga alagad ko" (Jn.13:35). Ipinakikita ito sa paglilingkod sa bawat isa "sa pinakahamak sa mga kapatid kong ito"(Mt.25:40). Ang panalangin Kristiyanong, kung gayon, ay hindi isang pambatang paglalarawan ng isang "iniidolong ama" o isang "Niño Jesus" na nagsisilbing mga larawan ng pagtakas mula sa hapdi ng paglaki at pagmamahal sa tunay na mundo. Ang pagtuligsa ng sekular na Sikolohiya ay tumutukoy sa pag-abuso ng pananampalatayang pangrelihiyon sa halip na sa tunay na katotohanan nito. Ang tunay na Kristiyanong panalangin at pag-asa ay nakabatay sa isang ganap at personal na pag-unawa sa PRESENSIYA ng Diyos at sa ibinubunga sa ating pagtanaw ng utang-na-loob, pasasalamat, pagsamba at pagmamahal sa Kanya. Ang Santatuhang panalangin ang humihikayat sa Pilipinong Katoliko, sa pamamagitan ng pananahanan ng Espiritu Santo, tungo sa pakikibahagi sa sariling karanasan ni Kristo ng "ABBA, Ama," na ang kalooban ay ipinapanalangin nating "sundin... dito sa lupa para ng sa langit" (Ama Namin). Bilang nakaagat sa pagsamba ng buong Simbahan sa Diyos Ama, Anak, at Espiritu Santo, ang Pilipinong Katoliko ay nagaganyak sa pinakamahilagang pananagutan sa kapwa-tao at pinapatnubayan ng walang-hanggang pag-uugnayan, mapangligtas na pagmamahal ng Santatlo. Tigib ng ganitong Pag-ibig, sama-samang tumutugon sa liturhiya ang mga Katoliko kasama ang isang umaalingawngaw na "AM-EN!" Sa pagtatapos ng lahat ng mga Eukaristiyang Panalangin: Sa pamamagitan ni Kristo (Nabuhay na Mag-uling Anak na Nagkatawang-tao), kasama Niya at sa Kanya, kasama ng Espiritu Santo, ang lahat ng pangral at papuri ay sa iyo Diyos Amang Makapangyarihan magpasawalang-hanggan.

仕え続けて五十年

レヒナ神父が金祝を迎える

八月四日(水)大口教会のJ・レヒナ神父(レデンブートル会・七十五歳)は司祭叙階五十周年(金祝)を迎えた。



レヒナ神父は一九三四年十一月十四日、ドイツはバイエルン州バイゼンベルクに生まれた。十九歳でレデンブートル会に入会し、司祭に叙階されたのは二十五歳(一九六〇年)のとき。そして司祭叙

階後はレゴリアン大学で学び、一九六三年に来日している。来日後谷山教会に赴任したレヒナ神父は、そこで日本語を習得し、加世田、徳之島、川内などで司牧、二〇〇二年四月から現在の大口教会で働いている。

初のベトナム人シスター誕生

聖血礼拝修道会聖ヨセフ修道院

いときからよい神父や献身的に働くシスターに恵まれていた。だがその人たちから『司祭にならないか』と声をかけられたわけではない。私の方から『司祭になりたい』と言いつ出した。しかし当時のドイツはこの神学校もいっばい。そんなとき、若い司祭から『レデンブートル会が神学生を募集している』と聞き、この会に入れてもらった。『こんな召命もあるのか』と言

う人がいるかもしれないが私は『はい、ここにある』と言いたい。私の司祭召命の道に大きなことや羽のついた天使は現れていない。恵まれた環境そのものが召命だった』と。

八月二十二日(日)大口教会であった金祝のミサと茶話会は、神父のこれまでの生き方を表しているかのよう、普段と何一つ変らず厳かで静かで、それだけに心にしみるものだった。

前に来日した三人のベトナム人。来日してから志願期一年、修練期二年を経て初誓願に至った。この間、霊的指導や黙想指導にはティエン神父やアン神父などベトナム人司祭が携わった。

誓願式のこの日は溝辺教会の信者や彼女たちと同郷の三人のベトナム人司祭やシスターたちがお祝いに駆けつけ、喜びを分かち合った。また、同時に一人のベトナム人の着衣式も行われた。聖ヨセフ修道院には現在九人の日本人会員がいるが平均年齢二十二の四人の加入によりかなり若返りが進んだ。

司教執務室便り

修行への招き

それでも、喜び・希望・感謝。未だに、時折「この言葉を口にしながら頑張っています」というお便りを頂くことがある。正直嬉しい。

小教区にいた頃は、何事につけ気が抜けない毎日だったように思う。教会には自分しかないわけ、あらゆることに司祭や園長に集中してやる。つまり、責任転嫁することができない。結構手抜きしながらやってきたつもりだが、今にして思うと必死だったという印象をぬぐえない。しかし、そのつど、なんとか一つひとつを乗り越えてきたという感もある。

そんな生活に一区切りをつけることになったときにふとわいてきたのが冒頭の言葉だ。多くの方から先ほどのような感想を頂くようになって『魔法の言葉だ』と自分でも誇らしい感じがしたりする。そんな魔法の言葉に最近もう一つ魔法の言葉が加わるようになった。『常不軽』(じょうふきやう)。

「私はあなたを決して軽んじません。…必ず仏になる方であるからです」と言いなが

ら会う人々を合掌して拝んだという若い修行僧が後に「常不軽菩薩」と呼ばれるようになった(『平和への道』庭野日敬著佼成出版社)。棒で叩かれ石で打たれて逃げながらも「仏になる方です」と合掌を止めなかつた姿が槍を向ける人々のために赦しの祈りをささげられた十字架上の主と重なる。

「常不軽」の話はブログでも書きどころかのミサでも話したことだが、道をゆずろうとしないだけでムツとしたり、違和感を覚えるようなフアッションの若者を冷笑したくなったりすることは多い。そんな時すかさず「常不軽!」するとたちまち心が穏やかになり「赦す」ことができるから不思議だ。道端で突然合掌したりする勇気はないが魔法の言葉だ。

あの青年僧の修行の姿こそ真のあかし。「行いの伴わない信仰は死んだもの」(ヤコブ2・17)と断じることばが追い討ちをかける。だから、ささいなことでも直ぐに不機嫌になって顔を曇らせることがいかに「信者らしくない」ことか。「名ばかりの信者」からの再起が日々求められる。だが、魔法の言葉を口にしながらの「修行」は意外と楽しい。信者らしくなれるお勧めレシピーだ。

「短信」

▼新たに終身助祭候補者
七月十八日(日)母間教会でのミサで池上聖行さん(八十七歳)が終身助祭候補者に認定された。

▼マザーテレサ展
七月二十一日から八月一日まで、鹿兒島市のデーパートで「マザー・テレサ愛の世界展」があり、大勢の人が写真や映像でマザー

短信

の愛の業にふれた。

▼加世田教会で誓信式
八月八日(日)加世田教会で誓信式があり、四人が受聖の恵みに浴した。またこの日は改宗式もあり、吉村栄治さんがカトリックの信徒となった。

▼祭壇奉仕者選任式
八月二十二日(日)ザビエル教会のミサで、川口茂さん(加世田)と石神秀人さん(阿久根)の二人が祭壇奉仕者に選任された。



過疎化の進む伊佐地区にある大口明光学園のバザーに明光人形が登場して七年目が経ちました。これには鹿兒島支部の後援会・育成会・卒業生の多大なる協力がありました。明光人形を作ることにしたのは、今の物の溢れた世の中にふさわしい物は何かと考えたから

明光人形をよろしく

です。そして不用になった制服で明光生の人形を作ることを思い付いたのです。ベレー帽・ボタン・ネクタイ等の材料は提供品ですが制服は忠実に再現されています。

そして今年も毎週金曜日の作業日に沢山の方々の協力があって、愛くるしい明光人形「明子さん」が誕生しました。長い月日を経て

も多くの卒業生、父兄の方々がいつまでも明光学園を慕って協力して下さいます。とても素晴らしい共同体だと思えます。

明光人形を通じて学園の素晴らしさ、五十年変わらぬ制服(今年明光創立五十年)、清楚さを多くの方々に知って欲しいです。九月十九日午前九時〜午後三時、大口明光学園で開催されるバザーに是非遊びに来て下さい。(大口明子)

鹿兒島市 徳永ノブ子
純心学園 川上 和
霧島市 政 ノブ子
愛光園 春山マリ子
出水市 沖 弘子
純心学園 山頭 信子

雲の峰アキアカネ飛ぶ補習生

夕映えにアンジェラスの鐘堤防にこだまし清し二度つつ聞こゆ
純心学園 川上 和
あの夏の白百合おとめ火衣の燦祭の詩に涙こぼれる
愛光園 春山マリ子
生きるのもみんなのお陰分るけど言うに言はれぬ互いの心
鹿兒島市 前田儀子
ふくらめる白き蕾のカサブランカ傘ひらくやうに真夜に咲きたり

大笠利 稲 牛憲

9月会と催し

- 1日(水) 川淵勇神父命日(一九九七年)
- 5日(日) 年間第二十三主日
- 8日(水) 聖マリアの誕生
- 12日(日) 七田和三郎神父命日(一九八九年)
- 14日(火) 年間第二十四主日
- 13日(月) 司教評議会・教区本部・14時
- 14日(火) 教区司祭会・教区本部・16時
- 13日(月) 十字架称賛
- 15日(水) 糸永真一名誉司教司祭叙階記念日(一九五二年)
- 15日(水) 定例司祭集会・教区本部・10時
- 17日(金) 鹿兒島教区司教座教会献堂記念日
- 19日(日) ロベルト神父霊名(ロベルト)
- 21日(火) 年間第二十五主日
- 21日(火) 奄美の宣教司牧を考える会
- 23日(木) 聖マタイ使徒福音記者
- 23日(木) ダニエル神父命日(二〇〇三年)
- 26日(日) バルビニ神父命日(二〇〇四年)
- 26日(日) 年間第二十六主日
- 29日(水) 世界難民移住移動者の日(献金)
- 29日(水) 聖ミカエル 聖ガブリエル 聖ラファエル大天使

保育者の心と姿を学ぶ カトリック幼稚園教職員研修会

七月二十三日(金)二十四日(土)霧島市のホテルで第四十二回カトリック幼稚園教職員研修会が開かれ、十九の園から百六十人の教職員が出席し、「美しい人に」「愛をこめて生きる」などの著者としても有名なシスター渡辺和子(ノートルダム清心学園理事長)から「保育者の心と姿」について学んだ。

鋒之原愛李

私は幼稚園教諭としてはまだ未熟な一年目。しかし、子どもにとつては一年目であろうと「先生」そうである以上もつと自覚を持って日々を送らなければならぬと感じました。子どもが成長するためには教師自身が成長しなければなりません。また教師の姿や行動などすべてを吸収する子どもたちのため、教師

私が子供の頃、名瀬町に古仁屋要塞の司令官が町民大会を開かせ、その席で「カトリックは邪教だ。すぐ外国人神父は追い出せ」と大演説をした。新聞も同じ論調の社説を連日のように書き立て、防火演習時には消防団長が信者の家に「焼夷弾落下」と赤旗を投げると消防ポンプはそこに放水され、そこが店舗だったりすると商品は水浸しとなってしまふという迫害とも思えることを始めた。また「信者は御殿浜に並ばされて、銃殺になる」という噂まで町内に広がった。そこで教会側は私の長兄・忠志を青年代表として



自身が基本的な生活習慣を身に付け、規則正しい生活を送らなければなりません。子どもたちのために、人として必要なこと、大切なことをしっかりと守り行動できる人間にならなければならぬのだと思いました。そして、心の教育で育てるべき「待つ心」「思いやりの心」「自分を大切にす

竹添久美子

カトリック幼稚園の保育者として、どのようなことを子どもの心に伝えていくことができるだろうかという課題を抱えながらお聞きした先生のご講話は、ま

みことばシリーズ⑮

迫害と宣教

終身助祭 久保俊弘

父が要塞に入り込み重要書類を盗んだからだ」と答えたという。そこで兄が「盗られた方にも責任がある。司令官閣下の落ち度になるのでは」と言うと、それまでの作り話をやめ「古仁

屋の軍港や要塞を強化したいが軍縮会議が開かれたばかり。それを外国人神父に見られると困る。だから外国人神父には奄美から出て行って欲しい。協力してくれるか」と言われたとい

さに課題への解答を与えて下さる内容が溢れていました。一人ひとりの魂・人格を大切にしてお話、保育者自らが美しい心を持つお話し、十字架のお話、やさしさ、愛についてのお話、自分を大切に、幸せは自分

お知らせ

- 宣教学校後の研修会「韓国の新しい福音宣教」郡山健次郎司教と久保俊弘助祭 9月7日(火)10時~14時 教区本部会議室 500円 ※誰でも出席可 申込(9月6日まで) ☎ 099(267)2375
- ホリスティック黙想会「免疫療法と気のながれ」坂本進神父 9月13日(月)10時~12時 ザビエル教会ホール 500円
- みことばと祈りの集い 裏辻洋二神父 9月20日(月)10時~17時・21日(火)9時~14時 教区本部会議室 1日1500円 聖書持参 申込 TEL 090-4587-2187 (柳)
- 臨床パストラル教育研究センターのワークショップ「価値観の明確化」9月25日(土)10時~16時 教区本部会議室 定員20人 2,000円 申込: 松村恵理 (TEL 099-248-2412・090-9499-0198 E-mail: pasto

行こうあなたも! 「ワールドユースデー(WYD)マドリッド大会」

—二〇一一年八月十六日~二十一日—

【説明会のお知らせ】

日時 9月19日(日) 14時から 場所 教区本部「信徒共同室」対象 高校生を除く18歳~35歳 詳細 教区本部・森まで (TEL 099-226-1510)

祭が赴任してくると「お前も同じスパイをするだろうから入れよ」といはいかん」とと邦人司祭を追い出し、軍に騙された形で奄美の教会は潰れてしまった。戦後「迫害のない今だからこそ信徒を増やさなければ」と頑張っていた兄はずつとこの軍とのやり取りの責任を感じていたようだった。

「全世界に行つて福音を宣べ伝えよ」とは聖職者にだけなく、私たち信徒にも言われている言葉。キリストとの出会いを持ち、体験したその愛と救いを他の人に伝えたいと思うのは自然なもの。しかし実際はそう簡単なことではない。だ

の生活の中でどのような状況でも子どもたちの手本になつていて意識する大切さを示されており、プロとして、自覚を持つことの重要性を感じました。子どもの前に立ち保育をまっとうするために、自分

の姿を見つめ直し、健全で安定した心を備えていきたいと身の引き締まる思いがしました。渡辺先生から頂いた皆さんの教訓をこれからの保育や自分の生き方に生かし、自分に与えられた時間や一人ひとりの存在を大切にしながら、「よく生きる」ことができるよう励んで参りたいと思います。(谷山善き牧者幼稚園)

蔵元修

毎年、霧島で開催されるカトリック幼稚園の研修会を私たちは楽しみにして心待ちにしている。それは、私たちの心を洗い、清め、そして活性化してくれる勉強会だからである。

キリストの愛は、価値なきと思われ者に注がれた愛であり、カトリック幼稚園の教師は、どんな子どもでも愛せる教師でなければならぬ。誰からも顧みられない者に価値を見いだせる、当たり前のことに感動できるそんな教師になつて欲しい。私どもの「善き牧者学園」に深くかわる「善き羊飼」に教育者の姿を見る、と話された。数に目がくらみ、一匹を置いて九十九匹を連れていきそうなの私たちに、心に愛がなければならぬことの大切さを説かれたのだ。(玉里善き牧者幼稚園)